

2021年4月 リハビリテーション学部始動

FACULTY OF REHABILITATION

『障害者』のレッテルはもういない

障害を持つ方が「自分らしく」生きることを支える学生を育てる…

そして、その学生も「自分らしく」生きることができる…

そんな「自分らしく」を支える学部を目指します。

「自分らしく」を 支える学部

群馬パース大学
リハビリテーション学部



3学科で構成されたリハビリテーション学部の開設により、学びの幅が広がり多職種理解を深められます。

..... 1学部5学科

保健科学部
臨床工学科
放射線学科
検査技術学科
理学療法学科
看護学科



..... 2学部7学科

保健科学部
臨床工学科
放射線学科
検査技術学科
看護学科



リハビリテーション学部
言語聴覚学科
作業療法学科
理学療法学科

誰もが「自分らしく生きる」ことのできる社会を目指して

理学療法学科に言語聴覚学科と作業療法学科が加わり、新たにリハビリテーション学部としてスタートします。リハビリテーション本来の役割は、病気や障害の治療にとどまらず、生活の再建、社会への参加、心の問題への対応も含めて、「自分らしく生きる」を大切にアプローチすることにあります。子どもから大人までのあらゆるライフステージにおいて、障害を持つ方と専門職がチームを組んで、多面的に評価し、治療支援していくことで、人の可能性はひろがります。「自分らしく生きる」を支えることにより、障害者というレッテルの必要がないサポート社会をつくる。そんなリハビリテーションのプロフェッショナルを育てる教育を目指します。

リハビリテーション学部開設準備室長
村田 和香



リハビリテーション学部

FACULTY OF REHABILITATION

言語聴覚学科

入学定員/30名
修業年限/4年

目指す資格
言語聴覚士

作業療法学科

入学定員/30名
修業年限/4年

目指す資格
作業療法士

理学療法学科

入学定員/60名
修業年限/4年

目指す資格
理学療法士

現在、「障害者」の定義は、「身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、そのほかの心身の機能の障害がある者であって、障害および社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」とされています。

しかし、実際はどうでしょうか。

例えば、義足をつけて8メートル飛ぶ幅跳びの選手、松葉づえでかっこよく踊るダンサー、耳の間こえないピアニスト、心が洗われる作品を描き出すダウン症の書道家の活躍など、「障害者」とひとくくりにはできません。

『自分らしく』生きられるサポート社会をつくる

リハビリテーションの役割は、病気や障害の治療はもちろんですが、障害を持つ方と医療専門職がチームを組んで、多種多様な治療支援が受けられるようにすることです。誰もが少しでも「自分らしく生きる」を実現できるよう、有能なりハビリテーションのプロフェッショナルを育成します。

言語聴覚士

「聞く」「話す」「読む」「書く」
「食べる」をサポート



「聞く」「話す」「読む」「書く」といったコミュニケーション機能や、「食べる」という活動に課題を抱える人に対し、機能の習得や回復、さらには機能制限が残っても、地域や社会で豊かな人生が過ごせるようサポートします。

作業療法士

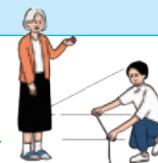
自分らしさをサポート



生活を構成する日常の「作業」が、ケガや病気、老化や発達の遅れなどにより上手くできなくなった人、「こころ」と「からだ」の両面からサポートし、自分らしい生活を一緒に整えていきます。

理学療法士

「起きて、立ち、歩く」といった
パフォーマンスの向上をサポート



病気やケガなどによって身体が不自由になった人に対し、その機能の回復や維持といった治療に取り組みます。また、日常生活におけるさまざまな運動や動作の指導を行うことによって自立した日常生活が送れるようにサポートします。

※「言語聴覚士学校」「作業療法士学校」「理学療法士学校」指定申請予定

リハビリテーション学部の特徴

1

地域社会での活躍を目指し学ぶ

リハビリテーションの領域は医療や保健、福祉のみならず、教育や製品開発などへと広がっています。また、リハビリテーションの中心は病院から地域へ、施設から在宅へと大きくシフトしています。人間の健康を生活の視点からとらえる国際生活機能分類(ICF※)を基盤として、身体・心・運動・つながり・社会・生活などの側面から総合的な視点をもって支援できる専門職を養成していきます。

※ICF：International Classification of Functioning, disability and health



2

多職種連携を学ぶ

リハビリテーションを進めるうえで多職種連携が欠かせません。本学は多くの医療専門職の学科を有し、全学的に多職種連携が学べる教育を進めています。また、「人間関係・コミュニケーション論」「生活文化と医療」「家族社会学」の授業科目では、他の専門職との学びの機会を持ちます。これらの学びに基づき、「多職種理解と連携」という科目で多くの専門職の特性を理解していきます。



3

言語聴覚士・作業療法士・理学療法士を目指す学生が共に学ぶ

3つの学科の学生が横断的なグループを組んで課題解決をはかる授業「チーム医療とリハビリテーション」を設けています。チームの意味、その重要性や有効性を体験的に学びます。この他「生涯発達心理学」「学習・認知心理学」「心理測定法」など、他学科の授業を選択して履修する機会を設け、幅広い職種の理解に繋げていきます。



3つのポリシー

群馬パース大学は、建学の精神に基づく大学の目的を達成するために、次の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を掲げています。



各学科では、3つのポリシーを具体的に示しています。ホームページで確認してみましょう。

リハビリテーション学部 ディプロマ・ポリシー

リハビリテーション学部の教育目的に基づき、学生が卒業時に身につけるべき知識や能力を次のように定めています。これらを身につけたことを卒業要件とし、学位を授与します。

- 1 倫理観を持って障害の有無にかかわらず、人間の個性と尊厳を尊重する姿勢
- 2 人間や社会に関する幅広い教養に根差し、リハビリテーションを取り巻く諸問題を認識できる能力
- 3 リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術
- 4 多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力
- 5 自己研鑽に励み、人格的成長を目指す姿勢

リハビリテーション学部 カリキュラム・ポリシー

リハビリテーション学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、その専門性に応じ、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。特に、多職種連携の基礎となる科目と、国際生活機能分類(ICF)の概念に基づくリハビリテーションに対応できるよう授業科目を工夫しています。

- 1 豊かな教養、コミュニケーション能力の育成、人工知能や情報社会に対応する能力、人間を多側面から理解するために、『人と社会及び自然の理解』と『情報と言語の理解』に区分した教養科目を配置しています。
- 2 『大学の学びの基盤』として、学び方入門、専門への導入、多職種理解と連携の科目を配置しています。
- 3 人間の運動や行動を解剖学、生理学、運動学、心理学、発達学的観点から分析・考察でき、リハビリテーション専門職として必要な医学的知識を学ぶための科目を配置しています。
- 4 リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術を身につけるため、各学科に『評価学』『治療学』『支援学』の該当科目を配置しています。
- 5 保健医療チームとして、連携・協働を図りながら、社会参加、健康増進、障害予防の見方ができるように、『チーム医療とリハビリテーション』、『地域リハビリテーション学』を配置しています。
- 6 学内で学んだ知識と実践との経験を統合できる機会として、対象者との人間関係の構築、施設内外における多職種連携の構築を経験し、将来の人間像を形成する場として、『臨床実習』を配置しています。
- 7 専門職として基盤となる科学的思考や自己研鑽力を身につけるため、研究の基礎につながる科目を配置しています。

リハビリテーション学部 アドミッション・ポリシー

地域の医療・福祉と生活上の困難を抱える障害を持った人々の自立及び生活の質の向上を支援する専門職を養成するリハビリテーション学部では、以下のような学生を受け入れます。

- 1 人に対する関心や思いやりがある人
- 2 豊かな人間性、柔軟性、協調性を備え、他者との連携を保つことができる人
- 3 物事に対して自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人
- 4 入学後の修学に必要な、高等学校で学んだ基礎学力を有している人
- 5 保健・医療・福祉に対して強く関心を持ち、社会貢献しようとする意欲のある人
- 6 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配ることができる人

多面的なサポート

いつでも相談できる

本学では担任制度を取り入れ、毎日の学習から普段の生活まできめ細かくサポートする体制を整えています。入学当初の生活の悩みや学習の進め方についての相談から、就職や国家試験についての助言など、幅広いサポートを学生個人に合わせて行っています。また、不安や悩み事などを相談できる学生支援センターや就職に関する相談ができるキャリアサポートセンターも学内に設置しています。



主体的な学びをサポート

キャンパス内では「学内無線LAN」に接続でき、学内のどこからでもインターネットに繋がることができます。本学ではWebポータルシステムを導入しており、休講・補講情報などの大学から発信された情報をパソコン・スマートフォンなどで確認できるだけでなく、Webポータルシステム上にアップロードされた講義資料をパソコンで閲覧しながら講義を受けることができます。また、修学ポートフォリオを活用することにより、学習成果の積み重ねを目に見えるようにし、学生本人の主体的な学びへと繋げています。また、「学内無線LAN」を利用し、学内のどこにいてもデータを学内プリンターに送信して印刷することができます。



キャリアサポート

キャリアサポートセンター

病院情報の提供や就職に関する悩み・不安についての相談、履歴書添削、模擬面接など、幅広く利用できます。



Webポータルシステム

PCやスマートフォンなどを利用して、求人票の検索および閲覧が可能です。病院案内などの情報は学内の就職コーナーでも自由に閲覧することができます。

卒業後も無料で再就職をフォローアップ

結婚や出産など、人生の転機で医療現場を離れたとしても安心。大学のグループ会社(メディカルサフラン)が無料で再就職をサポートしています。在学中の就職活動だけではなく、卒業後もサポートを受けられるのは、群馬パース大学の大きな魅力です。

外国での体験で成長できる

外国で、異なる言葉や風土、文化などに触れることにより、日本と外国の違いを肌で感じることができます。また、見聞を広めるだけでなく、人間として大きく成長させてくれます。国際交流センターでは長期休みの期間を利用して参加できる海外研修プログラムを企画、募集、実施しており、プログラム費用の大半を補助する海外研修助成制度を設けています。



5号館

2020年10月に完成予定

40室の学生専用マンションとさまざまなサポートセンターを配置し、学生生活が充実できるように環境を整えます。

5号館は既存の1・2号館からは徒歩2分、4号館からは徒歩5分と学生がアクセスしやすい場所に建設します。

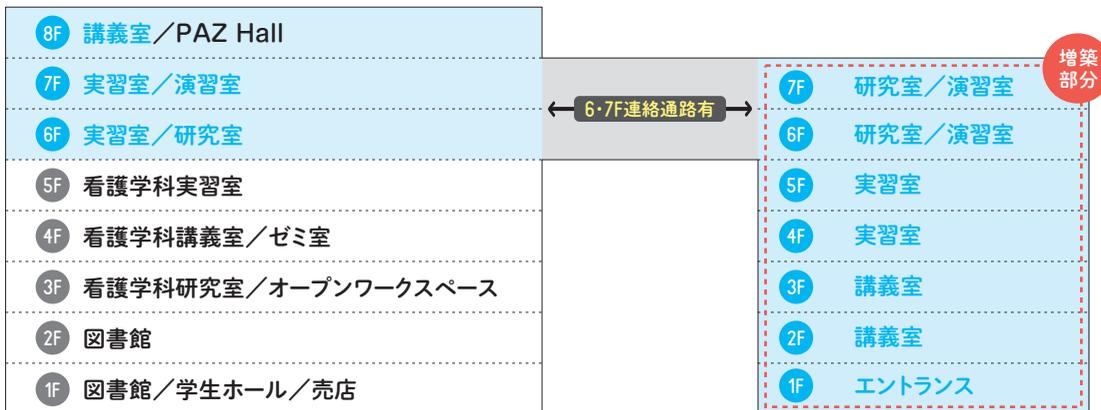


NEW リハビリテーション学部新設に合わせて1号館を増築します



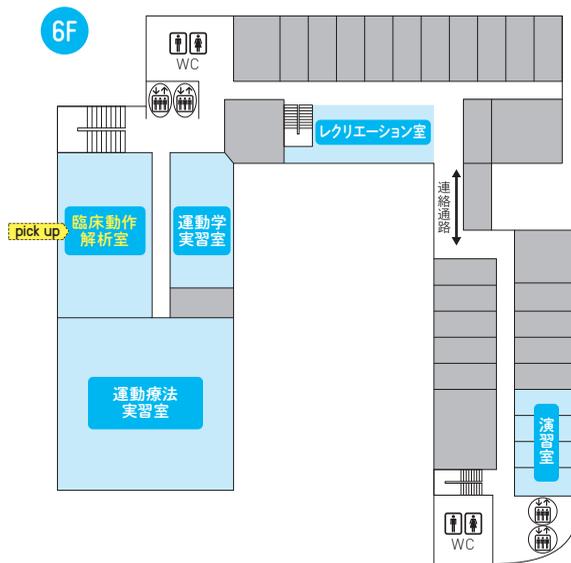
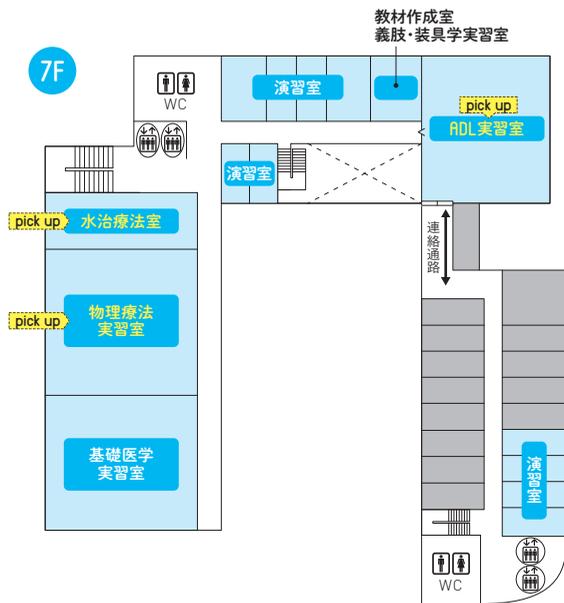
増築部分

1号館フロア概要



増築部分

リハビリテーション学部 実習室の紹介



pick up 7F 水治療法室

水(温水)の特性である「浮力」「静水圧」「粘性」「温熱効果」を用いた治療について学ぶ実習室です。



pick up 7F 物理療法実習室

物理療法(電気刺激や温熱刺激など)によって、痛みを和らげる治療について学ぶ実習室です。



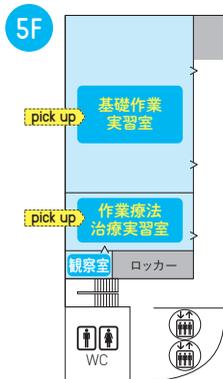
pick up 7F ADL実習室

日常生活活動(食事や洗濯など)の訓練や日常生活活動(食事や洗濯など)の訓練や分析を中心に学ぶ実習室です。



pick up 6F 臨床動作解析室

画像と床反力計を組み合わせたモーションキャプチャ技術による、高性能な三次元動作解析システムが設置されています。

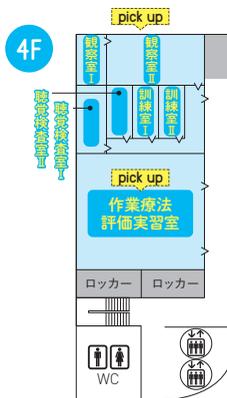


pick up 5F 基礎作業実習室

eスポーツや松葉づえサッカーなどのレクリエーション、陶芸や木工などのクラフトを体験し、作業の持つ力を分析します。

pick up 5F 作業療法治療実習室

スウィングやボールプールを使った子どもの治療や、アシストスーツや電動車いすといった補助具を使った治療など、幅広い領域に対応した治療が体験できる実習室です。



pick up 4F 観察室・聴覚検査室・訓練室

学生同士だけでなく、実際の患者さんの協力を得て、検査や訓練の演習を行います。聴覚や発音を正確に評価するため防音仕様になっています。講義室でのモニターも可能です。

pick up 4F 作業療法評価実習室

「自分らしい」作業をするための心理・運動・感覚など人の心身機能の評価や様々な検査を実習します。

言語聴覚学科

入学定員30名／修業年限4年

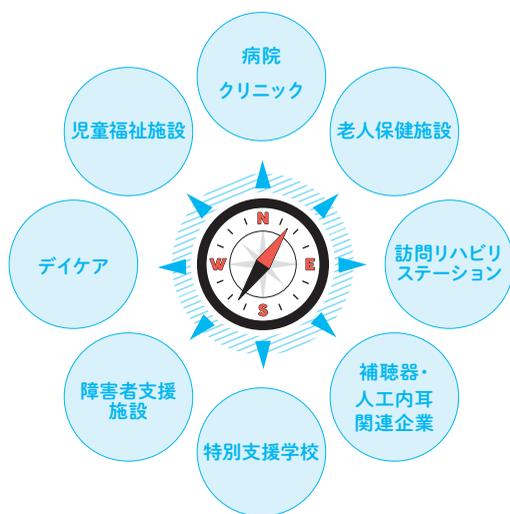
求める人材

- 社会の出来事に興味を持ち、思いやりと熱意を持って社会貢献しようとする人
- 未知の課題、新しい課題にひるまず向き合い、解決していこうとする意欲を持つ人
- 他者と適切にコミュニケーションをとり、協調して行動できる人
- 言語聴覚士になる意志を持ち、自分の能力を高め続けるための努力を惜しまない人

● 目指す資格

言語聴覚士

言語聴覚士の活躍のフィールド



就職状況

地域差がありますが、全国的には、まだ言語聴覚士は不足しています。特に地方では、言語聴覚療法を必要としながら、適切なサービスを受けられない方が少なからずいます。絶対的な数の不足だけでなく、言語聴覚士の知名度がまだ低かったり、必要性に対する認識が低かったりと要因は様々です。また、近年では摂食嚥下障害の方や認知症の方への言語聴覚療法による支援の必要性が高まり、求人は増える傾向にあります。全国的にみても求人数よりも求職者が少なく、国家試験に合格した卒業生の就職率はどの養成校でもほぼ100%です。

求人数 | およそ **400件** 言語聴覚士養成校1校に対する
2019年度の求人施設数

● 4年間の学び

		臨床実習
1 年次	言語聴覚士の責任と役割を理解 言語聴覚士は、どのような状況においても、患者さんのために「安全で質の高い」言語聴覚療法を提供する責任があります。この重要性を理解し、遂行できる人格を形成するために、教養科目や医療の基礎を学びます。	見学実習(1週間) 1年次後期(10月) 臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学します。学内で学んだ知識や技術を臨床現場での実践と結びつけていきます。
2 年次	言語聴覚障害の基礎を理解 言語聴覚学は、聞こえの障害から、認知症や発話障害と極めて多様であり、それらを理解するために、医学はもちろん音声学や心理学など広く理系から文系に広がる基礎知識を、専門基礎科目を中心に学習します。	観察実習(3週間) 2年次後期(2月) 対象者の情報と心身の状態や行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響を考え、病歴などを適切な表現を用いて記録していきます。
3 年次	責任を果たせる言語聴覚士を目指す 障害を最大限軽減し、さらに障害があっても、その方らしい生活を営み、より豊かな人生を実現するために、適切な評価と最善の支援によって、言語聴覚士の責任を果たすことを、専門科目を中心に学んでいきます。	評価実習(6週間) 3年次後期(10月～11月) 対象者の身体・行動の観察、情報収集、言語聴覚や摂食嚥下の列挙と明確化などを行います。また、ICF評価に基づき対象者の活動・参加の課題を抽出し、課題解決・改善のための支援計画を立案していきます。
4 年次	未来を創る言語聴覚士を目指す 言語聴覚士は、将来にわたり患者さんを第一に考えます。そのために、常に新しい知識を学び続け、また新しい技術の構築に寄与するために必要な謙虚、誠実、想像、そして創造の力を、卒業研究や演習、実習などを通じて学びます。	統合実習(6週間) 4年次前期(5月～6月) 3年次までに学修した知識や技術をベースに、臨床場面で言語聴覚療法におけるリハビリテーションの計画立案と実践を行います。その中で、対象者やご家族、他職種との良好なコミュニケーション態度も身につけていきます。

学科の特徴

① ICF(国際生活機能分類)に沿ったリハビリテーション

リハビリテーションは、機能訓練を指すのではなく、障害によって変化した生活、人生、人としての権利、喜びなどを取り戻すための過程の全てを指します。ICFというのは、適切なリハビリテーションを実践する際の、世界で認められた枠組です。言語聴覚学科は、このICFに沿って、患者さんの現状を的確に把握し、ICFをよりどころに、患者さんが望まれる生活、そして地域社会への参加(復帰)を実現するための最善のリハビリテーションが実施できる言語聴覚士を養成していきます。



② 苦痛ではなく喜びのリハビリテーション

日本では、障害をもった方は、ご自身の変化をマイナスにとらえやすく、リハビリテーションも苦痛を伴うものになりがちです。しかし、世界を見渡すと、苦しみではなく楽しみながらのリハビリテーションが効果をあげています。子供や認知症の方に、決して苦痛をもとめず、障害を持ちながらも、住み慣れた場所で当たり前に生活し、穏やかに、喜びに満ちた生活、意味のある人生を送っていただける方法を楽しみながら見つけていきます。



③ アクティブラーニング中心の学修方法

言語聴覚学は、わずか20数年前に国家資格が制定された非常に新しい領域で、これから大きく急速に発展していくことが期待される分野です。教室に座って教員の話聞くだけの受け身の学修でどんなに知識を増やしても、患者さんを目の前にしてできることは限られます。必要なのは、知識よりも「自分で学ぶ」「調べる」「考える」「想像し創造する」そして「発信する力」です。そのために、言語聴覚学科は、学生が自ら学ぶアクティブラーニングを大胆に取り入れます。

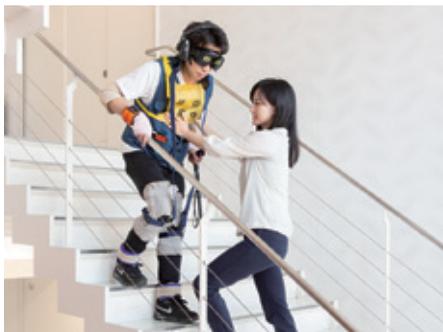


授業の紹介

Pick UP ICFとリハビリテーション

1年次(前期)必修

リハビリテーションの考え方の枠組となるICFを徹底的に学びます。障害をもちながらも、質の高い生活、喜びや生きがいのある人生を送ることがリハビリテーションの理念です。地域での生活や人生を支援するために、本学科では、知識としてだけではなく、実際に肌で感じることでICFの本質を理解することを学生に求めます。そのため、学生は障害の模擬体験(言語障害だけでなく肢体の制限も行う)をして、生活や地域参加への影響を実感することから始めます。



Pick UP AACと教材学

3年次(前期)必修

低下した言語能力を拡大・代替コミュニケーション(AAC)で確保することも重要です。AACを適切に選択し使いこなす練習をすることで、能力の低下が著しい場合でもコミュニケーションの喜びを取り戻せることがあります。また、楽しくリハビリテーションをするためには、適切な教材を選ぶだけではなく、時に1人の患者さんのために教材を創作します。AACや教材の特性、使い方、適用、応用を自分も楽しみながら学ぶ科目です。



Pick UP 地域参加支援演習

2年(後期)～3年(前期)必修

言語聴覚学科のアクティブラーニングの象徴的科目です。リハビリテーションは、障害のある方が地域で生き生きと暮らすことを目指しますが、それを阻む地域の壁が存在します。学生は、自分で障害のある方のニーズを調査し、地域や社会への参加を支援する事業を企画し、事業を実践運営します。自分で調べ、考え、想像・創造し、発信する力を身につけられる科目です。



教員からのメッセージ

及川 翔

Oikawa Sho

大学卒業後、回復期病院と療養型病院で11年勤務。脳卒中や肺炎、進行性疾患などを患い、社会復帰を目指す方とのリハビリテーションに主に取り組んできた。失語症・高次脳機能障害、ICFとコミュニケーション能力の研究に取り組んでいる。



Q 先生が言語聴覚士を目指した理由は？

A 兄がスノーボードで頭部を怪我したことがきっかけでした。その事故で記憶障害や注意障害などの高次脳機能障害が残ってしまい、当時大学生だった兄は目標の理学療法士にはなれないのではないかと絶望していました。しかし、言語聴覚士によるリハビリテーションを受け、半年後には大学に戻り、様々な方の支援によって、理学療法士になることができました。そんな兄と言語聴覚士の姿に感動したことを今でも強く覚えています。たとえ障害によって絶望の淵に立たされたとしても、それを支え、立ち直るお手伝いができるリハビリテーション専門職の強さを感じました。私自身は、もともと本が好きで、ことばの魅力とその大切さも感じていたので、この言語聴覚士という職業により魅力を感じ、目指したいと思うようになりました。

Q 働くことで大切なことは？

A 人を大切に想う心と、目の前の人を「理解しよう」とすることです。単純に知識と技術を学ぶだけでは、「〇〇障害ですね。だったら、こういう訓練ですね」と決めつけてしまいがちになりますが、言語聴覚士として大切なことは、知識だけでなく、対象者の人生までも含めて、何に苦しんでいる、どうなりたいのかを知ること、理解することだと思います。目の前の障害を持つ方を全人的に理解し、その上で、最も適切なアプローチを行うことができる言語聴覚士が求められていると思っています。

作業療法学科

入学定員30名／修業年限4年

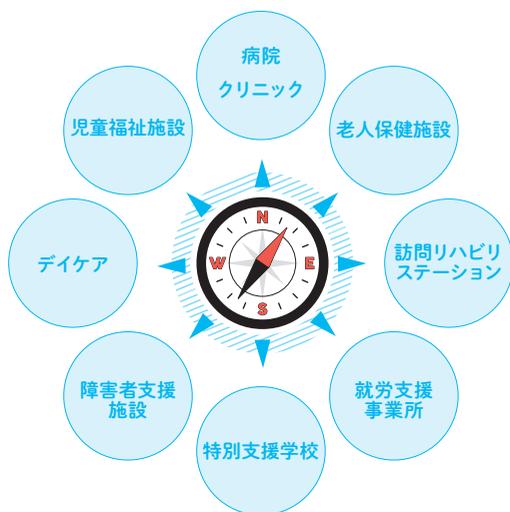
求める人材

- 他者との関わりを大切に、相手の立場に立って物事を考えることができる人
- 人の健康や生活、社会の動きに関心がある人
- 問題解決のために、粘り強く努力を続けることのできる人
- 作業療法士になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人

目指す資格

作業療法士

作業療法士の活躍のフィールド



就職状況

作業療法士の数はまだまだ足りないといわれており、実際に求人数は大変多いです。医療機関だけでなく、福祉施設や介護施設、訪問リハビリテーションや教育機関など、多くの分野の求人があります。作業療法士の需要は将来的にもさらに高まる可能性があります。その理由は、①日本が超高齢社会に突入り、多くの人が人生を考える機会が増えていること、②科学の進歩で、障害がより複雑で重複する方が増えること、③社会が複雑になり、ストレスの増える中でうつ病や精神疾患などが増えていること、などがあげられます。さらには、④身体や精神、そして発達障害を持つ方の就職の機会が増え、⑤認知症の方が増えていることなどにより生活に密着した役割は増えています。

求人件数 | およそ **600件** 作業療法士養成校1校に対する
2019年度の求人施設数

4年間の学び

1
年次

時代の変化に対応できる思考力を身につける

グローバル化、AIやロボット技術を活用する学びの基となる幅広い教養と豊かな人間性、倫理観を身につけ、医療専門職になる意識を高めます。また、リハビリテーションにおける作業療法の位置づけを学修し、作業療法学科の学生としての認識と心構えを持ちます。

2
年次

作業療法の評価と援助を学ぶ

身体とこころのしくみ、病気やケガの予防と回復過程などの医学知識を学びます。それと同時に、作業療法の理論を使って人を理解すること、「自分らしさ」とはなにかを学び、そのための評価と援助技術を修得します。

臨床実習

見学実習(2週間)

2年次後期(2月)

病院や施設で作業療法を見学し、業務や果たす役割を理解します。対象者と接し、障害を持つ方への理解を深めます。

3
年次

理論と実践を結びつける

3年次までに学んだ作業療法の知識に基づいて、実際に評価の一部を行います。作業療法士の指導のもと、援助の成果を確認する方法、根拠ある援助方法を学びます。また、高齢社会、自然災害、ワークライフバランスといった社会問題と作業療法の関わりを考えます。

作業療法基礎実習I-II (3週間×2か所)

3年次後期(9月～10月)

学内で学んだ理論をもとに、対象者の障害と環境の関連を理解します。身体面と精神面の両面から対象者を理解する方法を学びます。

4
年次

自分らしく働くための準備

4年間の学びを統合し、未来の自分の在り方を探求します。学びを通して確認した「自分らしさ」をもとに、教員との面談を重ね、あらゆる可能性を視野に入れて進路を決定します。卒業研究では、論理的な思考や問題解決能力の修得を目指します。専門性を磨くとともに、就職後のキャリア形成を助ける力を身につけます。

総合臨床実習I-II(8週間×2か所)

4年次前期(4月～7月)

作業療法士の指導のもと、対象者の評価、治療計画の立案と実施、カルテへの記録など、一連の業務を経験します。専門職としての振る舞い、チーム医療を学びます。

地域臨床実習(1週間)

4年次後期(10月)

就労支援センター、児童福祉施設、訪問リハビリテーションで、地域を支える作業療法場面を見学・体験します。地域で作業療法士が果たす役割を学びます。

学科の特徴

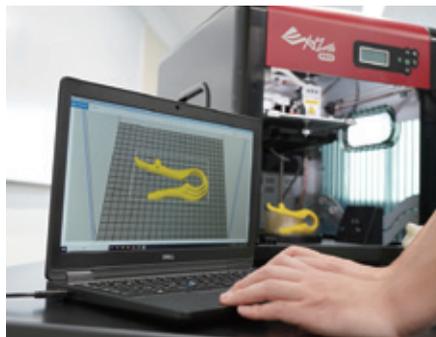
① 経験豊富な教員

本学科の教員10人全員が作業療法士であり、豊富な現場経験を持っています。たとえば、大学病院、総合病院、リハビリテーション病院、一般内科、精神科病院、クリニック、子ども発達支援センター、特別支援学校、児童デイサービス、就労支援センター、老人保健施設などの勤務経験が挙げられます。作業療法の様々な領域で幅広い活躍をしている教員と共に学ぶことができるのが本学科の魅力です。



② 教育内容の魅力

人の興味や価値、能力、年齢や社会の役割などから生まれる日常の生活を大切に考える「作業行動」や「人間作業モデル」という理論を学び、「自分らしく生きる」こと、地域社会に貢献することといった、他大学にはない専門性を身につけることができます。また、障害を持つ方のパワーアシストスーツの活用、一人ひとりにあった使いやすい道具を作り出す3Dプリンターの利用、eスポーツの取り組みなど、人工知能(AI)やロボット社会に対応できる基本的知識や活用を学ぶことができます。



③ 災害に立ち向かう

現代は、自然災害、テロ事件等、衝撃的な事件・事故が多発しています。このような災害が発生すると、今までのような生活ができなくなります。新型コロナウイルス感染症では、誰もが学校で学んだり友達と遊んだりできず、行動を制限されることの辛さを経験しました。災害時における人の生活を考え、日常から切り離された人々の生活を取り戻すために作業療法士ができることを「災害保健学」「日常生活活動学」「地域作業療法学」などの科目で学びます。自分自身と大切な人を守るために今できることを考え、災害に立ち向かう力を身につけます。



授業の紹介

Pick UP 基礎作業学演習

1年次(後期)必修

作業療法で用いられる「作業」を実際に行い、分析して治療的に応用することを体験します。「作業」とは、趣味や遊び、仕事、身の回りのことなどを指します。この科目では、伝統的な陶芸、レザークラフト、木工、絵画に加えて、eスポーツや松葉づえサッカーなどの障害者スポーツを行います。作業が人の生活にどのように関係しているのかを理解し、作業の意味を学びます。



Pick UP 身体領域の作業療法学実習

3年次(前期)必修

病気や事故などで身体に障害を負った方の作業療法を行うために必要な実践的治療技術を学修します。学生同士での作業療法の模擬演習やグループワーク、3Dプリンターを使った補助具の作成など、実践的な体験から理解を深めます。対象者の自立生活を支援するために、疾患と障害を理解し具体的な援助方法を学びます。



Pick UP 就労支援技術論

3年次(後期)必修

就労支援(職業リハビリテーション)とは何かを理解し、就労支援をするために必要な知識と技術や作業療法の役割と機能を学修します。職業評価と分析、訓練の手法、障害の違いによる支援方法を、教員の実践経験をもとにした講義と演習から学びます。また、就労支援関連機関・施設の見学を通して、現代の日本社会における障害者の就労支援制度を理解します。



教員からのメッセージ

宮寺 寛子

Miyadera Hiroko

大学卒業後、回復期病院と慢性期病院で勤務。脳卒中や脊髄損傷、内部疾患やがん等で入院する方のリハビリテーションを担当。自然災害によって被害を受けた方々の生活状況と、健康に関連する要因の追求を研究テーマとしている。



Q 作業療法士の魅力は？

A 国家資格であるという社会的信頼の高さは魅力の1つです。現場の需要は高く、就職率は100%です。また、活躍の場が医療機関に限らず、行政や幼稚園、国際協力機構（JICA）、企業やハローワークなど幅広いことも特徴です。女性が結婚や出産といったライフイベントを経験した後に復帰することも可能です。日本ではAIに代替されない職業として有名になりましたが、アメリカでは職場環境・求人数・満足度が高い職業である50 Best Jobsにも選ばれています。世界中で作業療法士の将来性や働きやすさが注目されています。

Q どんな人が作業療法士に向いている？

A 作業療法では、将来どんな自分でいたいのか？どんな生活を送っていたいのか？を考え、それを達成するための“作戦”を対象者と一緒と考えていきます。時には、自分とは全く異なる価値観を持つ方を担当することがあります。価値観の違いをどう受け止めるかによって、相手との関係も変わり、作業療法の進み方やたどり着く結果も変わります。そのため、作業療法士には、人が好きで、色々なことに興味を持てる好奇心のある人が向いていると思います。対象者に合わせて新しいことにも挑戦できる人は、作業療法士のやりがいや楽しさを存分に味わえますよ！

理学療法学科

● 入学定員60名／修業年限4年

求める人材

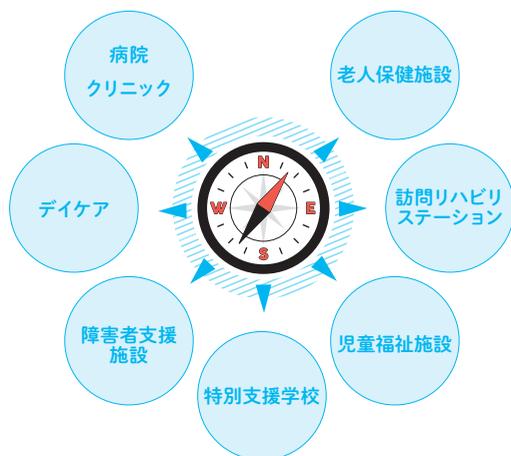
- コミュニケーション能力を持って他者に共感でき、人間関係を作ることができる人
- 人の運動・動作やその障害に関心がある人
- 問題解決のために誠実で、常に協調性をもって最善を尽くす熱意のある人
- 理学療法士になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人

● 目指す資格

理学療法士

- 初級障がい者スポーツ指導員
(取得単位に応じて、申請により取得)

理学療法士の活躍のフィールド



2019年度 求人数・就職率 (2020年3月卒業生)

求人数

550件

学生1人あたりの求人数
6.79件(求職者81名)

就職率

100%

求職者81名

理学療法士の
求人や就職先の詳細はHPへ



● 4年間の学び

1年次

希望をもって学びをスタート

社会人としてふさわしい教養と人間性を養うとともに、理学療法の基礎を学びます。1年次から専門科目に触れ、将来への希望をもって学習をスタートします。演習科目では、身体に触ることで骨、筋などの形状や動きを観察、分析する技術などを学びます。

2年次

気づく力を培う

患者さんの問題を解決するためには、的確な診断が必要となります。2年次には、理学療法診断学を中心に理学療法専門性を深めることで、科学的な見方や考え方を培います。

3年次

誇りをもって成長

理学療法の理論と技術を疾患別に学びます。実習を通して、理学療法診断に関わる技術や知識を定着させ、誇りをもって成長していきます。また、地域リハビリテーション学を通して、理学療法士が地域で担う役割を学び、将来の視野を広げます。

4年次

羽ばたく力を身につける

病院や施設での16週間の臨床実習の中で、自らの理想とする理学療法士像を見つけ、理学療法士として社会に羽ばたく力を身につけます。卒業研究や理学療法管理学を通して、卒業後の専門性を高めるための基礎を学びます。

臨床実習

見学実習(1週間)

2年次後期(2月)

学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、実際の病院・施設で学びます。理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法診断や治療、理学療法士の位置づけなどを見学を通して学びます。

評価学実習(5週間)

3年次後期(9月～10月)

学内で学んだ理学療法診断の知識・技術を中心に病院・施設で実習を行います。患者さんに対する問診や各種検査・測定と結果の記録法等について、各施設の理学療法士のもとで体験します。

地域理学療法実習(1週間)

3年次後期(1月)

地域理学療法で学んだ知識をふまえ、通所・訪問リハビリテーションでの理学療法を体験し、地域包括ケアシステムにおける多様な理学療法のあり方を学びます。

総合臨床実習Ⅱ(8週間×2か所)

4年次前期(4月～7月)

学内で学んだ理学療法の知識、技術を総括し、8週間の実習を2回に渡って行います。理学療法の流れに沿って、理学療法診断、目標やプログラムの設定、治療の実施などを、理学療法士のもとで主体的に学びます。

学科の特徴

① 地域理学療法学を重点的に学習

地域貢献に繋がる活躍の場として在宅医療に携わる理学療法士が増えるなか、本学科では地域包括ケアシステムの実現に向けて、「地域理学療法」に関する授業数を増やしています。講義と演習でカリキュラムが構成され、実際に地域と関わる授業を開講し（地域在住高齢者との関わりや屋外環境の観察など）、地域リハビリテーション領域で活躍できる理学療法士を育成します。



② 国家試験全員合格を目指したサポート体制

国家試験対策は、独自の集団学習体制と個別指導体制で行っています。集団学習体制では、学習時期を3期に分け各期に応じた集団指導を行っており、グループワークでの相互学習を利用した国家試験対策講座を行います。その他にも、学生個人の能力に合わせた個別指導体制を取り入れ、毎年高い国家試験合格率を維持しています。

2019年度 国家試験合格率
(2020年3月卒業生)

95.1%
全国平均86.4%



③ 教員に質問がしやすく、自己学習がしやすい環境

教員がいる研究室のまわりに、開放感のあるオープンワークスペースと、少人数学習ができる演習室を7つ完備しています。この空間が、教員に質問しやすく、話を聞きやすい環境を生みだしています。学生同士や教員とのディスカッション、コミュニケーションを多く取り入れることにより、協働の意味やチームワークの大切さを学びます。



授業の紹介

Pick UP 表面解剖学と触診法

1年次(後期)必修

解剖学を通して学んだ身体の部位や仕組みの知識を基に、自らの手や指を用いて、身体の表面から皮膚の下にある筋・腱・骨・関節などの形・大きさ・位置・状態・動きなどを観察、分析する技術を学びます。実際に、互いの身体で触診法を実践する中で、皮膚表面から触れた感覚の違いやその理由について学修し、その知識や技術を、2年次以降に学ぶ理学療法診断などへと発展させます。



Pick UP 基礎理学療法診断学演習

2年次(前期)必修

患者さんの問題を解決するためには、的確な診断が必要となります。また、理学療法士は様々な理学療法診断の結果を基に、治療のゴール(目標)を設定します。この授業では、診断技術の1つとして、人の動きの基となる筋力を診断する技術を学修します。実技では、実際の医療現場で行われている方法を互いの身体で実践する中で、患者さんの問題を分析するための技術や考え方を学びます。



Pick UP 地域理学療法学・地域リハビリテーション学

3年次(前期・後期)必修

高齢の方々や患者さんとその家族が住み慣れた地域で暮らしやすいよう支援する方法を学修します。具体的には、「老人保健施設」「訪問リハビリテーション」「通所リハビリテーションと通所介護」などでの理学療法について学びます。さらに、地域で生活する人たちの生活上の問題や課題を理解し、それらを解決するための方法や取り組みについて、グループワークを基に学修します。





4年 青木 結菜
群馬県立桐生女子高等学校出身



准教授 岡崎 大資

4年 丸山 花音
長野県野沢南高等学校出身

今までの学生生活で 苦労したことはありましたか？

青木さん:1年次から実技テストがあり、学年が上がるごとに専門的な内容となるため難しく、覚えることが増えたことに苦労しました。しかし、理学療法学科では先生方の部屋の前に勉強できるスペースがあるので、分からないことがあった際には質問しやすい環境があり、すぐに解決することができていました。日常的にコミュニケーションがとりやすい雰囲気があるため、勉強内容以外にも就職活動についての相談もしやすかったです。

丸山さん:わたしはグループでの討論が苦手でしたが、学年が上がるごとに討論の場が増え、以前より自分の意見を言うようになったことや、チームワークの大切さを感じることができました。また、高齢者理学療法学演習では、普段交流すること

ができない地域在住の高齢者の方々と座談会を行ったことで、高齢者のとても元気な生活に驚かされましたし、自分の家族とは異なり、ひとりの人として客観的に人物像や行動をとらえる力を養うことができました。

岡崎先生:客観的に物事をとらえ、ひとりの人の生活を“イメージする”ことは、病気や障害の予防を理解することに重要なことです。地域理学療法学では地域における理学療法の具体的実施方法に加え、対象者の行動を良い方向へマネジメントする行動分析学を学びましたね。行動分析学をテーマとした卒業研究を予定していますが、きっかけは？

丸山さん:3年次の評価学実習の際、理学療法士の方が患者さんにリハビリテーション室への移動を促したところ嫌がる患者さんを目撃しました。患者さんを無理やり誘導することなく、日々接するにはどうしたらよいのだろうと考えさせられたことがき

かけで、行動分析学に興味を持ちました。理学療法学科の先生方も、自分たちがやりたい研究ができるよう、様々なアドバイスをしていただいたり施設の手配をしていただいたり、学生一人ひとりに対して熱心に対応してくださいます。

岡崎先生:理学療法の技術を身につけていても、理学療法を導入する方法が分からなかったら治療ができないですね。理学療法の知識や技術だけでなく、行動分析学を含め、様々な学問領域を学ぶことで、幅広い視野を持つことは大事なことです。たとえ困難なことがあっても、解決策が生まれるはずですよ。



学納金

	初年次	2～4年次
入学金	250,000円	—
授業料等 ※	1,500,000円	各1,500,000円
4年間の合計	6,250,000円	

※ 授業料等に含まれるもの

- 学内実験・実習費
- 施設設備費

※ 授業料等に含まれないもの

- 教科書、実習ユニフォーム、実習器具など授業に係る費用
- 新入生研修費
- 臨床実習に係る費用(抗体検査、予防接種、宿泊交通費など)
- 諸費用(学生支援費、学友会費、学生保険料、保護者後援会費、同窓会費)

奨学金制度

群馬パース大学独自の奨学金制度

本学では、成績優秀で経済的理由により修学困難な学生に対して、学費の一部を給付することにより、学業に積極的に取り組めるよう次の奨学金制度を設けています。

※経済的理由については、下記の通り収入基準があります。

● 特待生奨学金

一般選抜(前期)の成績上位合格者には、**最大で在学期間中の授業料等を100%免除**

特待生S	4年間の授業料等 全額免除	特待生A	4年間の授業料等 後期分全額免除	特待生B	初年次の授業料等 後期分全額免除
------	-------------------------	------	----------------------------	------	----------------------------

※特待生Sと特待生Aは進級時に継続可否の審査があります。

募集人数 (S・A・B合計) **入学定員(380名予定)の10%前後**

申請資格

一般選抜(前期)に出願し、特待生選抜を希望する者

※ただし、総合型選抜I・II、学校推薦型選抜I・IIの入学手続き者でも、別途一般選抜(前期)を受験することで、選考の対象とします。(入学検定料無料/学科変更不可)

採用方法 一般選抜(前期)で優秀な成績をおさめた受験者より、選考の上決定します。

収入基準 群馬パース大学独自の奨学金には、下記の表の通り収入基準があります。

奨学金制度	主たる家計支持者1人の年間収入	
	給与所得者の場合	給与所得者以外の場合
特待生奨学金	源泉徴収票の支払金額が841万円以下	確定申告等の所得金額が355万円以下
神戸奨学金		
兄弟姉妹奨学金		

入学手続き時納入金

入学金	250,000円
1年次前期授業料等	750,000円
諸費用	97,370円
合計	1,097,370円

- 1年次後期授業料等(750,000円)は入学後、10月所定の期日までに納入していただきます。
- 諸費用は予定であり、変更になることがあります。

● ノートPCについて

入学にあたり、大学の授業等で活用するためのノートPCのご準備をお願いします。入学後の皆さんの学生生活には、講義、実習やゼミなどの授業時間内だけでなく、授業の履修登録や成績の確認、卒業論文やレポートの作成など、ノートPCの利用が必須です。ノートPCは「Word・Excel・PowerPoint」の利用と「PDFファイルの閲覧」ができるものを準備してください。不安な方は、入学前にご案内する **本学推奨PC** をご購入ください。



かんべ ● 神戸奨学金

「神戸奨学金」とは、本学創設者である樋口建介の「教育の原点」に多大な影響を及ぼし、学園創設に当たり多額の私財を投じた神戸照子先生の思いを尊重して設立された奨学金制度です。高い志があり、学業が優秀であるにも関わらず、経済的理由により修学困難な学生に対し給付されます。給付は当該年度限りですが、毎年申請可能です。

募集人数 各学科2～4年生において、それぞれ原則1名以内

申請資格 ● 本学に在籍する2～4年生 ※特待生奨学金受給者を除く
● 日本学生支援機構等から奨学金等の貸与を受けている者

申請時期 毎年5～6月

給付額 300,000円 後期授業料等納付時に減免

● 兄弟姉妹奨学金

申請資格 本学を卒業した者を含め、2人目以上の兄弟姉妹が学部^に在籍する者。または、同時に兄弟姉妹が本学の学部^に入学した者。
※特待生奨学金受給者を除く

申請時期 入学後、1年次の5～6月

給付額 100,000円 後期授業料等納付時に減免

主な学外奨学金制度

● 高等教育の修学支援新制度

群馬パース大学は
「高等教育の修学支援新制度」の
対象機関として認定されました。

「高等教育の修学支援新制度」は、経済的な理由で進学を諦めることがないよう、2つの経済的な支援で意欲ある学生の学びを応援するものです。

内容 [支援1]授業料・入学金の免除または減額
[支援2]日本学生支援機構[※]の給付奨学金
(返還の必要がない奨学金)の拡充

※日本学生支援機構の奨学金
経済的理由により進学が困難な状況にある世帯の学生に対して、大学等への進学を後押しすることが目的とされている公的な制度です。詳しくは日本学生支援機構のホームページで確認してください。

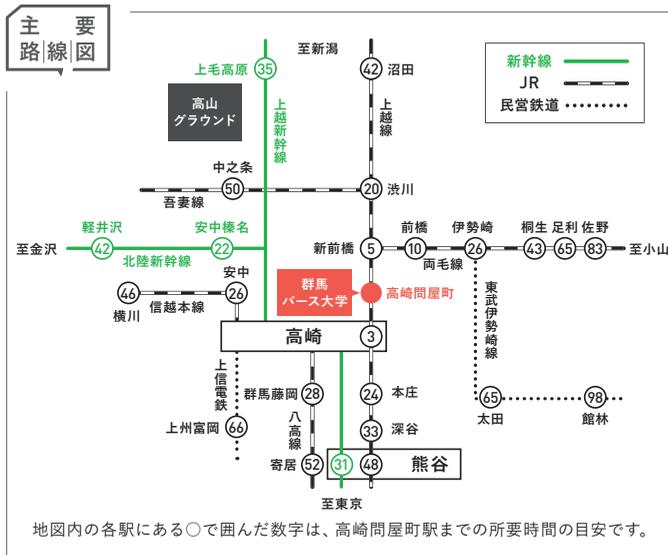
対象 住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯

● 都道府県・市区町村の奨学金:42件
(2019年度実績)

● その他各種医療機関等の奨学金:76件
(2019年度実績)



ACCESS JR上越線・両毛線「高崎問屋町駅」問屋口から徒歩10分



群馬パース大学

GUNMA PAZ UNIVERSITY

〒370-0006 群馬県高崎市問屋町1-7-1
TEL:027-365-3366(代) FAX:027-365-3367
www.paz.ac.jp E-mail:paz@paz.ac.jp

(入試について)
TEL:027-365-3370
E-mail:nyushi-koho@paz.ac.jp

